

思いのままに主体的に造形活動にとりくめる子どもの育成
～「ワクワクルームを完成させよう」の実践を通して～

1. 設定理由

子どもたちが自由に発想し、思いのままにつくり出す造形活動をおこなうことで、あじわうことのできる喜び。自身の前年までに積み重ねてきた経験や直感、発想をもとに感性を働かせながら造形遊びに熱中させることに小学校における造形活動の意義があると考えた。

そこで本実践では子どもたちが、意欲的に主体的に思いのままに表現するために、①好きな材料で好きな制作を好きなだけおこなうこと、②制作途中の作品を見合い、作品を通して個から集団へとつながりあうようにすること、③作品や活動をふりかえる際に「紹介カード」を用いることで、活動への思いをふくらませ、次への意欲につながるような手立てをとることで、本主題にせまりたい。

2. 研究仮説

経験や直感をもとにして造形遊びに熱中することを通して、子どもたちにまかせる場を多く取り入れたり、人や作品、空間とつながっていける手だてを工夫したりすれば、思いのままに主体的に造形活動に取り組める子が育つだろう。

3. 研究内容

第4学年 図画工作科授業実践

造形遊び ～ワクワクルームを完成させよう～

4. 結論

自分たちの思いのままに部屋を飾ってよい、としたことで、子どもたちひとりひとりがそれぞれにしたい制作や活動に取り組み、主体的に活動することができた。制作途中の作品をふりかえり、紹介し合うことで、友だち同士や異なるグループで交流が活発になり、作品作りが充実するとともに、お互いに認め合うことで自信をもって活動に取り組むことができた。

造形活動の場所がかたづけられたあとも記憶に残るよう写真に収めたり、ふりかえりの中で、好きな色の台紙を選び、好きな形に貼り合わせる活動を取り入れたり、完成した部屋で給食を食べ楽しい思いを共有したりしたことで、自分や友だちへの活動の思いをいっそう強くすることができた。